

研究集会用資料作成の手引

Instructions to Authors

岩手太郎*, ○青森次郎**, 山形三郎***, 福島四郎†, 秋田五郎‡, 宮城六郎§

Tarou Iwate*, ○Jirou Aomori**, Saburou Yamagata***,
Shirou Fukushima†, Gorou Akita‡, Rokurou Miyagi§

*岩手工科大学, **青森医科大学, ***山形株式会社,
†福島情報研究所, ‡秋田株式会社, §仙台株式会社

*Iwate University of Technology, **Aomori Medical College, ***Yamagata Corp.
†Fukushima Research Institute of Information Science, ‡Akita Ltd., §Sendai Ltd.

キーワード： 多点計測 (multi-point measurment), フーリエ変換 (Fourier transform), 回帰分析
(regression analysis), 最適推定 (optimal estimation), 雑音除去 (noise elimination)

連絡先： 〒000 岡盛市青葉町 12-13 岩手工科大学 情報工学部 機械工学科 岩手研究室
岩手太郎, Tel.: (0000)235-1000, Fax.: (0000)235-1001, E-mail: iwate@okamori.ac.jp

1. はじめに

計測自動制御学会東北支部研究集会における
ご発表をお申し込みいただき、まことにありが
とうございます。以下の資料作成要領にしたがっ
て、資料をご準備ください。また、当日のプロ
グラムを同封させていただきますので、よろし
くお願いします。

なお、この資料作成の手引きは Windows 版
「 $\text{\LaTeX}2\text{e}$ 」で作成されており、例文 (この手引
自体) の $\text{\TeX}$ ファイル「Example.tex」と専用
のスタイルファイル「SICETHK.sty」が用意さ
れております (漢字コードの変換により、Linux
等の版でも動作するはずです)。 $\text{\LaTeX}2\text{e}$ の入
手、インストールについてはネット検索、各種
書籍などをご参照ください。各社ワープロソフ
トなどをご使用の場合は、下記、原稿の作成方
法をご参照いただき、体裁を調整してください。

また、東北支部の研究集会や主催講演会の案内
をご希望の方、あるいは、研究集会の講演申し込
みをご希望の方は、sice-tohoku@topic.ad.jp
まで電子メールでご連絡下さい。

2. 本 文

2.1 原稿

A4 で最大 10 ページとしてください。原稿は
できれば 2 段組での作成をお願いいたしますが、
困難な場合には 1 段組でも可とします。活字の
大きさは 11 ポイント程度をお使い下さい。字間
はなるべく詰めて、行間は読みやすい程度に適
宜あけてください。

2.2 題目等

本見本を参考にして作成下さい。上下と左側に、それぞれ 2.5cm 程度の余白を必ずとってください。資料には

- 1) 発表年月日
- 2) 資料番号 (プログラムに記載されている論文番号参照)
- 3) 邦文表題
- 4) 英文表題
- 5) 邦文著者名 (登壇者に○印を付ける)
- 6) 英文著者名 (登壇者に○印を付ける)
- 7) 邦文勤務先
- 8) 英文勤務先
- 9) 5 個程度の邦文キーワード (英文キーワード)
- 10) 連絡先:
 - (a) 郵便番号
 - (b) 住所
 - (c) 氏名
 - (d) 電話
 - (e) FAX
 - (f) 電子メールアドレス

を付けて下さい。

2.3 文体

口語体とし、当用漢字およびかなを用い、新かなづかいによるものとします。外国語はカタカナまたは原語のままとします。

2.4 用語

なるべく文部省または JIS で制定されたものによることとします。

2.5 単位

国際単位 (SI) を用い、数字はアラビア数字を使うものとします。

2.6 記号

量および単位記号 (ローマ字またはギリシャ文字) はなるべく JIS で制定されたものを使用することとします。

3. 文献の引用

3.1 形式

参考文献のリストは本文の末尾にまとめて書き、次の形式によるものとします。

3.1.1 雑誌のとき

番号) 著者: 論文題目, 誌名, 巻-号, 始ページ/終ページ (年)

例:

72) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, 11-4, 60/63 (1992)

3.1.2 単行本のとき

番号) 著者: 書名, 始ページ/終ページ, 発行所名 (発行年)

例:

23) 杉山守弘 (編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版 (1991)

3.2 引用

引用箇所に番号を右肩に小さく ¹⁾ のように記入して下さい。



Fig. 1 EPS ファイルの例. Example of EPS file using includegraphics.

Table 1 有名な定数. Popular constants.

名称	文字	数値	単位
重力加速度	g	9.8	[m/s ²]
円周率	π	3.141593	□

例:

神経系の遠心性コピー情報¹⁾は, ここでは認められないと言われている^{2, 3)}.

3.3 脚注

本文の下に横線を引き, その下に記入して下さい*. 記号はページごとに*印を使うものとします.

4. 図表の書き方

4.1 書き方

基本的には計測自動制御学会論文集の書き方に準拠します.

4.2 表題

図の表題は図の下に, 表の表題は表の上に付けてください. 表題は和文と英文の両方で書くのが望ましいですが, どちらか一方でも構いません. Fig. 1 は図の表題の例, Table 1 は表の表題の例です.

5. 数式の書き方

変数名はイタリックで書くことを推奨します. 式番号は (1) のように式の右端に書いてください. 以下に例を示します.

例:

このように考えると, 点 A は球面 π_O と直線 MA' との交点となる. MA' の方程式は ρ_A をパラメータとすると

$$\frac{x}{x'_A} = \rho_A \quad (1)$$

$$\frac{y}{y'_A} = \rho_A \quad (2)$$

$$-\frac{z - z_e}{z_e} = \rho_A \quad (3)$$

で表され, 球面 π_O の方程式は

$$x^2 + y^2 + z^2 = r^2 \quad (4)$$

で与えられる.

6. おわりに

細かい書き方は計測自動制御学会論文集に準拠して下さい.

参考文献

- 1) 杉山守弘 (編): 両半球の神経心理学, 123/126, 朝霧出版 (1991)
- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, **11**-4, 60/63 (1992)
- 3) 笠間 健, 朝比奈 敏之, 吉田 崇, 辻岡 三郎: 脳波を用いた 3 次元運動計測システム, 計測自動制御学会論文集, **19**-12, 997/1003 (1983)

*たとえばこのように